

2022 年度以降の地域連携プログラムの名称および枠組みの変更について

和歌山大学観光学部 地域連携委員会

1. 変更の趣旨

観光学部の「地域インターンシップ・プログラム (LIP)」は、観光学部生が地域の主体（行政、地域団体等）とともに地域課題の解決に向けた活動に取り組むことで、地域の現場からの実践知を習得することを目的として実施してきた PBL 型の教育プログラムです。学部設立時（2008 年度）より、実践的に「地域に学ぶ」カリキュラムの柱として、また設立間もない学部と県内自治体等との連携関係の構築に向けた取り組みとして開始され、2020 年度までに計 145 件のプログラムを実施し、延べ 1,600 人以上の学生が参加してきました。地域での学びを通じた教育効果に加え、学部と地域の信頼関係の醸成にも寄与してきたことから、LIP の受け入れを希望する地域（自治体等）は増加傾向にあり、近年は公募型だけで年間 20 プログラム近くを受け入れています。

一方で、教員数にも限りがある中、これまでの成果と課題を考慮しつつ、LIP 自体の位置づけや枠組みを再整理する段階を迎えています。

以上の状況を踏まえ、プログラムの持続可能な運用と質の向上を両立させるため、既存の LIP の名称およびプログラムの枠組みを以下の通り変更し、内容を刷新します。

2. 名称の変更について

前述の経緯に加え、「インターンシップ」の名称が学生の就業体験に関するプログラムとして一般化している昨今の状況を踏まえ、以下の通り名称を変更します。

【新名称】地域連携プログラム：Local Partnership Program (LPP)

3. 枠組みの変更について

既存の LIP のプログラムの枠組みを、以下の 2 タイプの LPP として発展的に再編します。

(1) 連携教育 LPP 【通称「Lゼミ」】

① 地域公募タイプ [旧 公募タイプ LIP]

② 教員申請タイプ [旧 申請タイプ LIP]

(2) 学生主導 LPP 【通称「L活」】 [新設]

(1) 連携教育 LPP【通称「Lゼミ」】

① 地域公募タイプ [旧 公募タイプ LIP]

- 受け入れ地域（地方自治体等）を公募し、地域が希望する教員の承諾を得て、教員と地域の受け入れ担当者が連携してプログラムの活動計画書を作成。[従来通り]
※ 学生との連携による活動経験のない地域向けの“スタートアップ型プログラム”として位置づけ
- 活動期間は2年間（現行プログラムについては終了予定年度まで可）
- 単位認定あり [従来通り。活動時間に基づき判定]
- 活動費用（交通費等）補助あり [従来通り]

② 教員申請タイプ [旧 申請タイプ LIP]

- 教員の研究活動等に関連した地域での実践活動をプログラム化。教員が活動計画書を作成 [従来通り]
- 活動期間は任意 [従来通り]
- 単位認定あり [従来通り。活動時間に基づき判定]
- 活動費用（交通費等）一部補助あり [従来通り]
※ 4月中旬に申請のあったプログラムに限る

(2) 学生主導 LPP【通称「L活」】 **★新設**

- 地域からの申し込みに基づき学生を募集。応募した学生が地域と連携・協働しながら、主体的に実践するプログラム
参加学生（グループ）が地域の受け入れ団体と連携して年間の活動計画を作成し、学部（地域連携委員会）としてプログラムを認定
※ 期間が終了した連携教育 LPP（「Lゼミ」）から移行し、より主体的に学生が活動する“グローアップ型プログラム”としての位置づけも想定
- 活動期間は任意（活動計画の提出は1年毎）
- 単位認定なし
※ 基礎自主演習・プロジェクト自主演習としての申請は不可とする
※ 教員は「顧問」として、学生の相談役となる
※ 学外研修届については、学生が作成したものを顧問が確認のうえ、地域連携委員会に提出
- 活動費用（交通費等）補助あり
※ 学外研修届および年度末の活動報告書の提出を義務づける

4. LIP→LPP 何が変わったの？ Q & A

Q1 今までの LIP のプログラムはどうなるの？

A1 今年度が最終年度に当たる 3 プログラム（新宮市、広川町、紀の国わかやま文化祭）については終了となりますが、それ以外のプログラムについては、「L ゼミ」として、当初計画されていた年限まで継続して取り組んでもらえます。

Q2 今年度終了するプログラム（地域）で、継続して新たなプログラムを立ち上げることはできるの？

A2 「L 活」として、改めて地域（or 団体等）と学生が協働でプログラムを練り上げ、申請すれば可能です。「L ゼミ」としての申請はできません。

Q3 2022 年度に、新たなプログラムの申請（「L ゼミ」、および「L 活」）は可能なの？

A3 2022 年度は、新たな枠組みへの移行期間とするため、Q2 のケースを除き、「L ゼミ」・「L 活」ともに新たなプログラムの申請は受け付けません。

Q4 LIP と LPP（「L ゼミ」）との違いがよくわかりません。何が変わったの？

A4 プログラムの活動期間が「2～5 年」→「2 年」になりました。（他の変更点はありません）

Q5 なぜ「L ゼミ」の活動期間が短くなったの？

A5 「L ゼミ」を終えた学生が、「L 活」に移行することを想定しています。つまり、学生がより自発的・発展的な取り組みに移行できるよう「L ゼミ」公募タイプの活動期間を限定しています。

Q6 「L 活」について、よくイメージできません。

A6 例えて言うなら、学生主体のサークル活動や部活動のイメージです。担当教員を「顧問（相談役）」としたのもそのためです。「L ゼミ」は、地域で経験値を積む“スタートアップ型”、「L 活」はより主体的に地域課題に取り組む“グローアップ型”と位置付けています。

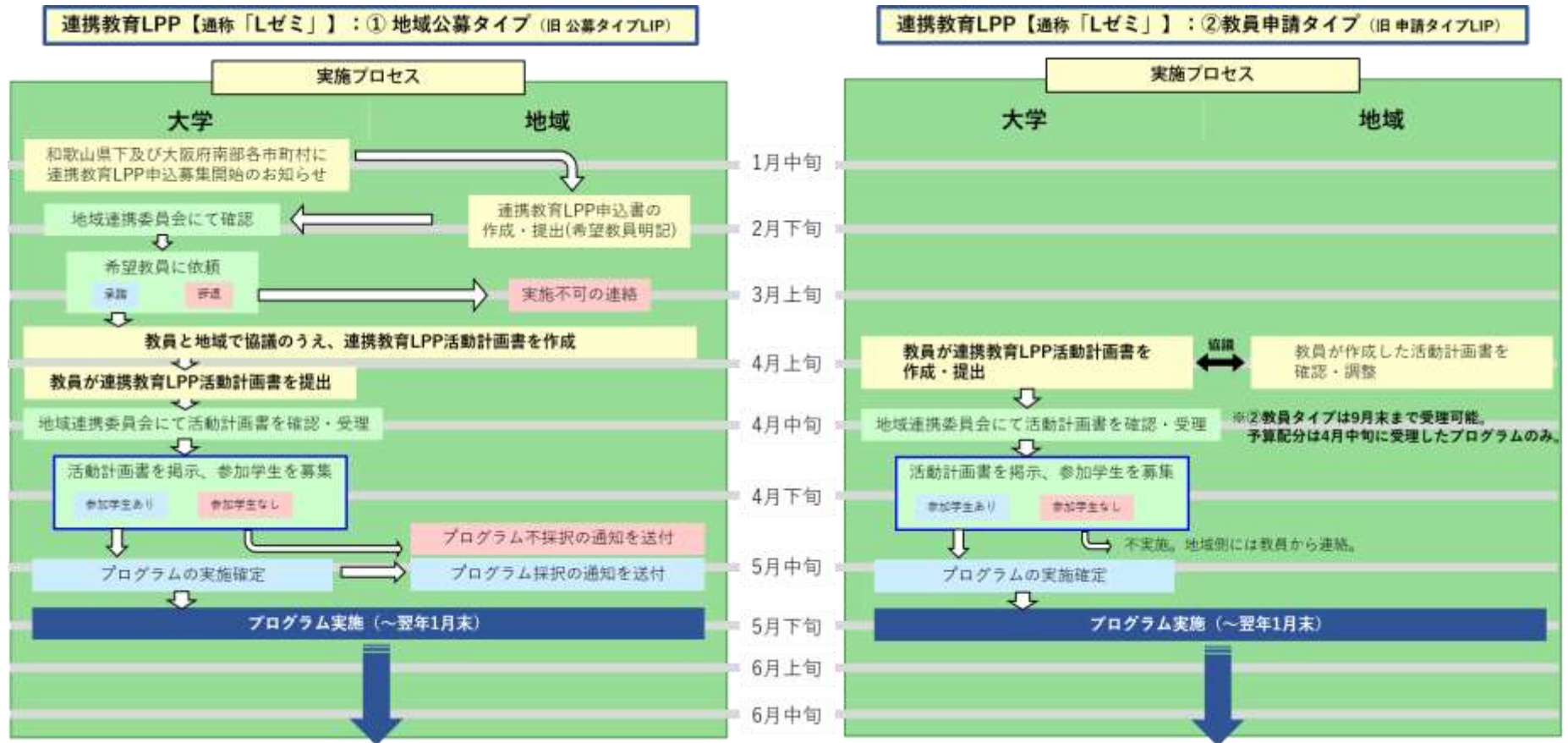
Q7 「L 活」は単位が認められませんが、参加するメリットは？

A7 現行 LIP において、単位認定がない 4 年次に活動を継続している学生は決して少なくありません。では、なぜ活動を継続しているのでしょうか？

- 地域の課題解決に関わることで、新鮮な「やりがい」や「面白さ」を感じている
- 机上の学習では得られない「学び」や「気づき」が得られる
- 地域の人と強い「繋がり」が築ける
- 頼りにされる「喜び」

等、様々な理由が見受けられます。本プログラムの主旨は、まさにそこにあります。より自由で柔軟な発想や活動への本気度が問われる「L 活」に参画することは、自らの価値観や職業観、人生観を磨く貴重な機会になるはずです。

5. LPP 実施フロー図



学生主導LPP【通称「L活」】 ★新設

